



日刊報日誌録日誌
日刊報一ヶ月廿五
報費十五圓一
廣告料 一行四十
按所指定 二十圓
發行所 平野町三
新刊報社

座講識常
センシティブは敏感な
感じの早い鋭い意でセ
ンシブルと云へば物判
りのよい敏感なことだ
センジュアルは肉感的
な肉慾的な性的な官
能的な類でセンジュ
アルな女と云へば其意

新第四部の任命式

戦捷及び無火災祈願

終つて秋晴れ下に秋季検閲
今日平消防組に於ける

平市に合併した平窪村の消防組は既報の如く平消防組第四部となつて部長に松本市郎氏以下小頭、部長十五名の幹部任命を終つてゐるが今日午前九時消防手百廿九名の辭令交付式を平署會議室に於て舉行、式は合符捺印後辭令の交付あり八卷署長の訓示終つて閉式、同組全員四百四

豊間漁港は縣支辨

四倉港の續工内定

工費十五萬圓の施行確定的
両望を立て、争奪やむ

石城郡四倉町の宿願である同港第二期工事の施行は新妻町長を初め地元民の熱心な運動に主務省にも其の要を認められ施工の内定を傳へられてはゐるが郡内豊間漁港にも繼續工事の施行につき猛烈な運動あるため争奪の結果共倒れを憂慮されてゐるが縣はこれを收拾採擇に慎重な態度を保持し方部選出縣議にも意向を叩かれて最近漸く確定的となつたものは豊間漁港を縣支辨に編入して部民の希望に添ふやう漸進施工を行ふことによつて同地からの争奪を絶つことが豊間村としても將來の爲め不利でないとの諒解がついて四

八月減産

濱通り木炭

昨年より三萬俵
縣木炭平支所管内(石城一圓
双葉郡南部)去る八月の木炭
検査高は石城五五五七俵で
昨年同月の六四二九九俵より
八七五二俵を減じ双葉郡南の
四一八五九俵を合せて九万七
千四百七俵でこれを前年の濱

平市軍事後援會

各區の寄附氏名

長橋、古研、久保、立町

- 資金一萬餘圓の寄附達成を見込んだ
平市軍事後援會の各區制當
金が順調を集積してゐるこ
と昨紙所報の如く當日まで六
千八百九十二圓九十九錢に達
した寄附者氏名は左記の如く
である、
- 【長橋町百四十三圓】二十
五圓小野圓次郎 十五圓關
内半平 十圓關内三郎
武藤次郎三郎 吉野健助
竹原次英 五圓大嶺秀
吉 小野さく 龜林喜一
三圓つゝ鴨原四郎 堀田利
光 加藤房太 江川市藏
關内信二郎 川崎文治 吉村
清藏 橋本徳治 猪狩彌作
小齋宗一郎 桑原仙松 中
村政 二圓つゝ山田榮松
加藤義久 熊澤光義 小幡
留次 木田喜一郎 佐川朝
壽(以上)
 - 【新古四百四十六圓】二百圓
山崎清三 二十五圓大谷要
次郎 二十五圓つゝ佐藤繁
次 鈴木亮 十七圓久保木

三那検査高十六萬一千四百俵より減すれば残り六萬三千六百七俵で浪江支所管内に於ける双葉郡北と相馬郡一圓にありても冷産してゐるので濱通り總体では昨年より約三萬俵の減少である

應召事務指導
平署では軍人の應召に関する會計事務につき今日二十一日午下一市三町十四ヶ村の同擔任者を午前九時から同署會議室に招集し其の時局的の同様な事務に關して指導打合せをなした

平署時局に處して

武道大會を獎勵

但し經費は成べく之を省く
何所迄も尙武第一主義

平署では現時局に鑑み非常な緊張を以て管下部民の士氣鼓舞に努めてゐるが此の際武道大會の如きを催すことは士氣振作の上に最も應はしむべきもので其の他の事情と時期を利し二圓五十錢づゝ菊地芳郎 山田親政 三森清重 齋藤勝治 二圓三十錢づゝ橋久左工門 橋久吉 二圓二十錢づゝ大塚勲太郎 一圓四十錢づゝ明智熊吉 管波新直 一圓二十錢づゝ橋光二 伊藤長三郎 松崎吉一 一圓十錢郡司吉男 一ひ經費は尙武第一主義を以て

理解と訓練の

不足が原因

松角農林囑託の調査
取引

不人
氣な
乾繭
取引

四、經營主体に人を得ず共
同乾繭所に從事する職員は
みな生繭市場時代の職員で
これに對する新取引の訓練
及び趣旨の徹底を欠いたこ
と
五、來場者たる製糸家との
六、産業組合、縣の蠶糸常

皇軍慰問

國防獻金

平城炎按摩マッサージ師會で
は創立記念式の催を取止めて
會員二十五名の獻金十一圓二
十錢を會長大塚喜一郎氏から
今廿一日國防獻金を市役所に
寄託されたまた石城郡小川小
學校尋四生齋藤英子さんは賈
つた小使を貯めて置いた金五
圓を國防費に献金方昨日平
署に寄託、平市古銀治町四眞
田禮一郎さんは遺失金拾得の
報勞一回を皇軍慰問費に次へ
て平市第十五丁平病院内の
看護婦一同は慰問袋八個を皇
軍へ前者は平署へ後者は平市
役所に寄託された

軍事後援會へ
寄附
染物業組合から
▲大會には柔剣道審判員を
派遣する 演武科目に銃劍
術を加へられたい 個人試
合成績優秀者各道一名を限
り分會賞状を授與(但し主
催町村内の者に限る)

今晩は北の風、晴
明日は北西の風、晴時々曇
(小名瀬測候所)

養蠶家の經營調整の然め町
村産業組合への団体加入を
なされらるゝと共に組合
側もこれに對する調整運動
に努力すること
養蠶家をして養蠶實行組合
に一人ももれなく統制団体
行動以外にそれをなされしめ
ざるやう組織づけること
縣の産業組合、蠶糸の兩關
係者の密接な聯絡により綜
合的に指導を確立徹底せし
むること

文魁文堂
高梅便箋
忠孝便箋
文鳥便箋
名作詩箋
店代理 文魁文堂
電話三三三

農業方面

麥作の施肥は 斯うする (八)

縣農試松浦生

恐らく肥料商から澤山肥料の寄贈があつたから施用したに過ぎぬのであらう、或は設計書程には實際に使つてゐなかつたのかも知れない、加里は水稲の場合と同じく最も豊富に土壌の中に含まれてゐるから良い肥料を反當三〇〇貫もやれば加里肥料を施用する必要は殆んどないと考へる、然し砂質の土壌及び平坦地で、昔から餘り堆肥を施用しない様な地方では堆肥の外に一貫乃至二貫の加里肥料を用ひた方が安全である、畑地は昔から虐待せられて堆肥なども餘り澤山には施用せられてゐないから地方が非常に劣つてゐる、畑地の利用増進は今後益々重要な問題となつて行く、東北地方としては殊に然りである、即ち畑地改善とよ意味に於ても麥に對して良い堆肥を充分に施用する様にしなければならぬ、

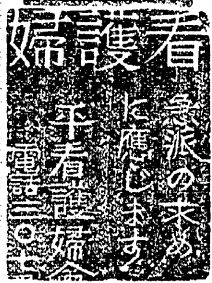
五、作物には夫々その生育に最も都合のよい酸度がある、

水稻は微酸性の時最も良好な生育を示すか、麥は中性の場合が最もよい、麥は酸度に對する抵抗力の弱い作物とせられてゐる大麥と小麥とを比較すると大麥の方が酸に弱い、本縣の水田土壌の酸度を調査した成績によると酸性土壌が非常に多いのである、畑土壌は水田土壌より酸度の強いものが多い様な傾向があるから肥料石灰を用ひて酸度を中

和する必要性は麥に於て大きいのである、然るに實際は水田には相當石灰を用ひ、麥には餘り使用しない、これは寧ろ反對になつて行かなければならぬものである(元)

牛も豚も優良品の自慢

平市 田町
肉の御 二二二屋
用命は



藤沼醫院

平市紺屋町 電五〇七

スペインG.H.N 元詰
ゴルフポートワイン
旨味 葡萄酒 1・10
無糖人の方には少し水を加へて
召し上ると風味一そう佳良です
(平2) 西村屋藥舗 (電3)

中野齒科醫院

平市田町 (松月堂向ひ)
院長 日本齒科 醫學士 西川 誠
副院長 日本齒科 醫學士 中野 眞次
電話五〇九番

診療科目
一、齒科 一般
一、保存科 補綴科 總齒科 工科
一、齒列矯正科 小兒齒科 瘻瘻膿漏科
一、レントゲン科
一、外科

病室増築、手術室完備

産科 醫學博士
婦人科 五十嵐雄二
平市新川町「電話二六九番」

お醤油は ヤマフル

醬油 味噌
たひら 正宗
経節食料品

明治生命磐城代理店 山崎與三郎
電話 本営業部 二七〇番
山崎合名會社

高久病院

平市田町 電話五二三番
院長 醫學士 高久忠

診療科目
内科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

齋藤齒科醫院

平市田町(藤田女學校前)
東京齒科 醫學士 齋藤賢三

診療科目
口腔外科、補綴科
保存科、齒列矯正科
小兒齒科
(其他齒科一般)

毎日晝夜診察
日曜午後休み

パイロット高級万年筆

新製品發賣... 獨特の新奇匠全透明軸
スライトのいらぬ
パイロットのいらぬ
景品付發賣中
¥2.00 以上

平・四・マルトモ・電二三四

三

店商山横 債券部
町間仲市平
〇一六〇オ東東管振
番一七三話電

平病院 (平市元共濟病院跡)

院長 醫學博士 鈴木定藏

診療科目
小兒科 院長醫學博士 鈴木定藏
一般外科 部長醫學士 池谷宗三郎
皮膚泌尿器科 部長醫學士 鈴木定藏
レントゲン科 部長醫學士 鈴木定藏
物理療法科 技師 岡田重徳
藥劑科 部長藥劑師 吉本幸平

診察時間 毎日午前八時より午後九時止
夜間診察に従事す(急患は此
時間限にあらす)

往診隨時、病室完備 (自炊の便あり)

山崎與三郎

山崎與三郎
山崎與三郎
山崎與三郎

レストラン サロシ

喫茶、茶、酒場を兼ねた。
町田平 二五三電